



このように、学習院初等科は、私立学校として独特の歴史を歩んできました。

学習院初等科の歴史

学習院がはじめにつくられたのは、江戸時代の末期になる弘化4年(1847年)になります。孝明天皇は、京都御所の隣に公家を教育する学校として学習院を開き、15歳から40歳までの人がここで学びました。

東京には、明治10年(1877年)10月17日、神田錦町に開校し、華族の子どもたちを教育するためにつくられました。その後、明治17年に私立学校から官立学校(唯一の宮内省の学校)になり、戦後再び私立学校となりました。学習院初等科は、今年で147年目を迎えます。今までに、政界や財界をはじめとして、各界で活躍している卒業生を多数輩出しています。



伝統を継承しつつ 新しい時代を切り拓く 学習院初等科



学習院初等科長
梅本 恵美

豊かな人間性と社会性を育む

学習院初等科は、明治に創立されて以来、大勢の卒業生とご父母に見守られ歩んできた歴史と伝統のある学校です。特に戦後は、「自重互敬」「正直と思いやり」を大切に、豊かな人間関係を育んできました。

令和の教育が目指す協働的な学びの場でも、異なる考えを謙虚に聞き、自分の考えを深め高める「自重互敬」の精神が必要とされます。初等科は、この精神を大事にしながらさまざまな教育活動を行い、豊かな人間性と社会性を育てていきます。

初等科の教育目標は「真実を見分け、自分の考えを持つ子ども」です。グローバル化や人工知能・AIなどの技術革新が急速に進み、いっそう予測困難な時代になると言われるなか、本質に目を向けられる価値観を持ち、自分の考えをしっかりと持つことが、より良い社会や自分の人生を切り拓く力になります。

その資質や能力を伸ばすために、低学年から「専科制」を採用入れ、全教科に共通して、基礎力を徹底するとともに、ICTを活用した学習や日本の伝統文化に関する学習、体験学習、国際交流などを充実させています。

長い歴史に培われた伝統や校風を尊重しながらも、未来を展望し、教育内容や学習環境の充実にたえず努め、知情意体のバランスのとれた教育活動を展開してまいります。

ICT活用と国際交流

本校では、1年生から6年生までの全児童にセルラーモデルタブレット端末を配付し、各教室の65インチの大型テレビや各学年・特別教室の大型電子黒板を有効に使って授業を行っています。

ICT化は、本校で実施している学び合いによる協働学習に大いに貢献しており、短時間での意見の共有も可能になり、発展的な考察や議論もできるようになりました。

コロナ対策としてのZoomによるオンライン授業(令和3年度3週間)へも、スムーズに移行ができました。

また、休止となっていた英国チェルトナム・プレップの授業参加やホームステイが実現し、6年生児童20名は貴重な体験ができました。また、英国チェルトナム・プレップの児童と初等科の6年生との文通や豪州ザビエル校とのテレビ電話によるオンライン交流も行っています。文通は、6年生一人ひとりがチェルトナムの児童と行っています。豪州ザビエル校とは、5・6年生の国際委員が、クイズや折り紙等を用いてテレビ電話で日本文化を紹介しました。姉妹校となった豪州MLCともテレビ電話等で交流しています。

自重互敬とは...

「自重互敬」とは、第18代安倍能成学習院長(1883~1966)が常に学習院生に教えてきた、「自分を大切にし、お互いを敬い思いやり」という精神です。自らの品性を保ち、お互いを敬うことを大切に代々続いてきた学習院初等科の教育の柱です。その精神は、初等科生活における指導の隅々にまで行きわたっています。教室のドアを開けてみれば、そこには自分の思いや考えを丁寧に語り、友だちの意見に心をこめて耳を傾ける子どもたちの瞳を見つけることができます。

また、何事も飾ることなく、本質に目を向けられる価値観を大切にしています。ふとした児童の会話や立ち居振る舞いからも、その一端を感じることができます。

令和7年度学校見学会

開催日

9/7(土)

要事前Web申し込み

詳細は初等科ホームページに掲載予定。

おいしくて 安全な学校給食

初等科では月1回のお弁当の日を除いて、児童は、3階の食堂で給食をいただいています。給食は、専任の栄養士と調理師が、3階の厨房で旬の食材を使い調理しており、栄養のバランスのとれたもので、とてもおいしいと児童や父母にも好評を得ています。



給食の様子

危機管理・安全対策

防災対策として、緊急時に学校と保護者の方とアプリやメールで双方向の連絡を行う「新わかば通信」を導入しています。また、登下校時に児童がICカードをタッチすると、保護者へアプリで連絡がいく「さくらタッチ」も併用しています。正門には警備員が24時間体制で勤務しています。四谷警察署や四谷谷駅とも連携し、児童の登下校を見守っています。



さくらタッチ

生活指導上 特に留意していること

- 日常生活のしつけを重視して、自重互敬の精神を育てるようにしています。
- 毎月、月目標を教室に掲示して、毎月の生活指導に役立てています。
- 人に迷惑をかけず、人から受けた厚意に感謝し、正直で思いやりの心を持ち、それらが適切な言葉となり、行動となって実践できるように指導しています。
- 動植物の飼育・栽培・観察などによって豊かな心情を培うとともに、勤労の楽しさを体験しています。
- 広い校庭・近光園・愛育園・体育館・プール等を利用しての行事・運動・遊戯、また校外教育等によって、たくましい心と健やかな体の育成に努めています。
- 服装・所持品等は質実を旨とし、物を大切にする気持ちを育てることに留意しています。



深さが調節できるプールで
(1年水泳授業)



四谷キャンパス内にある近光園



〒160-0011 東京都新宿区若葉1-23-1

TEL 03-3355-2171(代) <https://www.gakushuin.ac.jp/prim/>